

パーキンソン病患者における胃瘻造設後の予後に関する研究

1. 研究の対象

2010年1月～2015年12月に当院で胃瘻造設術を受けられた方

2. 研究目的・方法

目的：パーキンソン病における胃瘻造設の効果を明らかにする。

方法：個人情報の管理を徹底し、後方視的に診療録を調査する。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴，カルテ番号，年齢，性別，疾患名，罹病期間，胃瘻造設前の絶食日数，食形態，血液検査データ等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒616-8255 京都市右京区鳴滝音戸山町8

国立病院機構 宇多野病院 関西脳神経筋センター

リハビリテーション科 言語聴覚士 村上 075-461-4121(代)

研究責任者:

臨床研究部 大江田知子